

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101323		
法人名	社会福祉法人 日浦会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム レーブそとめ	ユニット名	
所在地	〒851-2324 長崎県長崎市上黒崎町2199-14		
自己評価作成日	平成27年2月1日	評価結果市町村受理日	平成27年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成27年3月5日	評価確定日	平成27年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

オゾンに包まれた山頂より海が望める自然環境が自慢です。庭先には花畑や野菜畑があり、芋掘りをしたり、草花を鑑賞したりして入居者の楽しみの一つになっております。またホーム内ではシーズ犬(名前はサンボ)や金魚を飼っていて入居者の癒しになっています。そういう環境の中で入居者の方に安心して生活して頂いております。暖かい日には外で外気浴を兼ねてレクリエーションを行ったり、老健施設や隣の式番館等を散歩して楽しんでおられます。鬼火焼きや夕涼み会、花見等の屋外での行事も入居者の楽しみとなっております。またホームでの誕生日会や年2回の家族ふれあい会を開催して皆で楽しむアットホームな雰囲気も作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“レーブそとめ”の玄関に入ると大きく成長した金魚が泳いでおり、ホームのアイドル犬も出迎えて下さった。職員の離職は無く、チームワークも保たれており、入居者の方々のお力を引き出すケアが続いている。入居前に行動障害が強く表れていた方も、職員の日々の関わりで次第に症状が落ち着き、笑顔が増えている。自主的に日々の仕事(雑巾縫い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、米研ぎ、料理の下ごしらえ、ゴミ袋作り等)をして下さり、生き生きと過ごされている。家族の方から「人間らしくなった」「丸くなった」などのお言葉を頂き、職員も嬉しく思っている。家族との交流も大切に、26年度はホームで家族会(ふれあい会)を行う事ができた。会長が大切にされてきた理念“地域福祉に貢献”を職員全員で実践し、これからも“職員間の和をもって明るい職場作り”を行い、入居者の満足度(自立支援)を向上させていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を共有し、ホームの方針として「入居者と職員のふれあいの時間を作る」をH19年度より到達目標として入居者の方が満足して頂けるよう実践に努めている。	職員の入れ替わりはなく、日々理念の実践に努めている。職員同士の話し合いを続け、入居者個々の能力を引き出すように努めている。入居者も職員も、自主的に行動する姿が増えており、理念にある“皆様の満足度”に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	H21年4月より自治会に加入し地域行事に参加しているが、特定の入居者の方しか参加できない状況である。黒崎地区学童クラブ「夕焼けキッズ」や上黒崎子供会のもぐら打ちで入居者との交流があった。	上黒崎子供会がホームの前で“もぐら打ち”を披露して下さった。学童クラブの子ども達と会話を楽しみ、ご利用者が“広告を使ったゴミ箱作り”を子ども達に教えてあげる事もできた。上黒崎自治会のミニ運動会に参加したり、外海ふるさと祭りに入居者の作品(椅子等)を展示している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター主催の外海地区ネットワーク会議でのグループワークで、グループホームの立場で意見を述べたり、認知症の人の生活状況を説明して何かの参考にならないかピアールした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	母の日会や父の日会の代わりにグループホーム独自の御家族様ふれあい会を5月に開催し、好評だったので12月にも開催して喜ばれた。運営推進会議の議事録を全家族に郵送あるいは手渡して運営推進会議というものを理解してもらっている。	ミニ運動会に参加した時の課題(トイレが和式)や、交通安全週間で横断歩道に立つ時の課題(車が一時停止しない等)を報告し、参加者の方々と対策の検討を続けている。自己評価(外部評価)結果も報告し、取り組み内容のアドバイスを頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長崎市すこやか支援課や琴海行政センター及び包括支援センターの担当者には月1回「レーブだより」や運営推進会議の案内や議事録を郵送している。また包括支援センター主催の外海地区ネットワーク会議に参加している。	指定更新時に、契約書と重要事項に関する指導を頂き、新しい契約書等が作られた。ケアマネの方が市役所に出向き、補装具交付券申請の相談を行い、担当者からアドバイスを頂いた。外海地区ネットワーク会議に副施設長が参加し、自治会長や民生委員と情報交換を続けている。	運営推進会議で災害対策を検討している。過去の災害を教訓に、自治会長から「もう一本道路を作っては・・・」等のご意見を頂いた。倒木等で道路が閉鎖した場合も想定し、今後も長崎県と長崎市、地域の方と対策を話し合う予定である。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は常に玄関は、窓はオープンになってあり自由に入出入りしている。出て行こうとする人に対しては玄関ドアにつけている鈴や他の入居者に呼んで頂き、職員が対応している。またエスポールの職員にも協力してもらって電話連絡で対応している。	身体拘束はしていない。入居前に行動障害が表れていた方も、入居後は次第に穏やかになり、ご自分のペースで生活されている。外出希望の方は、ご本人が満足されるまで職員も一緒に歩いたり、日々の役割を担って頂き、お気持ちが集中できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人グループの研修会や外部研修で高齢者虐待防止関連法を学び、事業所内での虐待がないよう職員どうし注意し合っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	長崎市すこやか支援課主催の研修会や法人内の研修会に参加して成年後見制度を学んだ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の病状悪化や異常行動の時は緊急に家族に連絡し、十分に説明し家族の理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からは要望を職員が聞いたり、家族からは面会や電話で相談にのったりしている。またご意見箱を設置し、職員に対する不満は法人内老健施設の支援相談員が受け付けている。	面会時に家族とお話する機会を大切にしている。健康面や活動状況等の報告書を毎月郵送すると共に、ホーム便りも作成し、日々の暮らしぶりを報告している。入院中に「ここ(ホーム)に戻ってこれますか?」と言う質問もあり、今後の生活場所の話し合いを続けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のレーブ会議や日々の申し送りで職員の意見を集約し、月2回の主任会議で報告している。	長く勤務する職員が多く、「日々の業務で気づいた事は記録に残し、その場で言おう。(後からでは忘れるので...)」を合言葉に、職員のアイデアや要望を日々の運営に活かしている。職員が自主的に考え、行動する姿も増えており、常に入居者の楽しみが増える方法を考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同グループ内の病院で日勤者は年に1回、夜勤者は年2回の健康診断を実施し、職員の心身の健康を保つための対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、業務に差支えないように法人内外の研修を勧め、研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の見学は行っているが、ネットワーク作りは行っていない。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されてから詳しい話を聞いて、本人の安心を確保するために自宅で馴染みの物を居室に置いたり使用して頂いたりして、安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話で気軽に相談できる体制を取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内老健施設の支援相談員が窓口になり対応している。また支援相談員と同行して家庭を訪問し、本人や家族と面談し、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の手助けを行いながら入居者の意向を第一に考え、話し合いながら築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	同グループ内の病院以外の受診や困ったことがあれば、一緒に対応策を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来て頂ける雰囲気を作っている。隣のレーブ式番館や老健施設におられる親や兄弟、友人に面会に行ったり来てもらったりしている。また宅配便等の贈り物が届いた時は本人にお礼の電話を掛けてもらっている。	テレビで故郷が映ると会話が盛り上がり、当時の生活を教えて下さっている。面会時に車の無い方は、日浦病院までお迎えに行っており、お弁当を持参し、居室でゆっくり過ごされている。病院の待合室で馴染みの方と交流したり、神父様がお祈りに来て下さっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事での余興参加、ホーム内での共同作業などを通じて交流を深めたり、お互いに声を掛け合ってもらっている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は家族・病院と連絡を取り、安心して頂けるようにしている。希望のある方には戻って頂けるよう窓口である法人内の老健施設の支援相談員と連絡を取り合っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望に応じ、生活して頂けるよう買物・リハビリを実施している。困難な場合は表情を汲み取り話を聞いたり、一緒に散歩に出掛けたりしている。	生活歴や生活習慣、趣味等を把握しながら、“ご本人を知る”事を大切にしている。団欒の時に楽しい時代の事を話して下さり、入浴時にしんみりと過去の苦労話や“原爆”の辛さを語って下さる方もおられる。食べる事が大好きな方が多く、食べ物の意向を伺っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴を考量して活躍場面を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のレーブ会議・申し送りで職員全体が把握しており、個々にできるところにその力を発揮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員がそれぞれ1~2名の入居者を担当し、日々の過程について責任を持って介護計画に盛り込み、月1回のレーブ会議で職員全員で確認し合っている。またモニタリングを実施し職員全員で評価している。	ご本人と家族の意向を伺い、職員同士の話し合いを続けている。主治医からの指示も反映し、畑仕事・下ごしらえ等の役割や楽しみも盛り込まれている。母体施設のPT・OT・STからリハビリのアドバイスもあり、日々の生活でリハビリを取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録、申し送りノートに記載し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物やドライブを必要に応じて行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地元の自治会長や民生委員、警察の方にも参加して頂き、長崎市琴海行政センターまたは地域包括支援センターの職員の同席のもとで周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の回診や定期受診の介助をし、家族には文書にて受診状況を説明している。また距離の離れた医療機関には家族同伴で受診をお願いしている。その際必要な書類を家族に持たせている。	回診前にバイタル等を主治医にファックスしている。回診時(毎週)に主治医に相談でき、夜間の体調変化時は日浦病院の看護師に連絡できる。「ホームでの日常生活状況及び経過」を担当者が記入し、毎月家族に郵送している。職員の観察力も深く、日中の早期対応に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日3回バイタルチェックを行い、異常がある時は日浦病院の外来の看護師に相談している。また老健の看護師にも入居者の身体で気づいた点を相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報を交換し、法人内の支援相談員が窓口になり、そうした場合に備え連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日浦グループ内の病院、老健施設で対応できるようになっている。	ホームで看取りケアを行う方針はなく、入居時に重度化や急変時の対応について説明している。状態が変化した場合は職員も病院に同行し、立場が困難になった時は、日浦グループの病院や老健施設と連携し、入院や入所等の検討をしている。重度化しないよう、リハビリや体操を取り入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は協力病院の日浦病院へ連絡して指示を受けたり、同法人の老健施設の看護に連絡し相談できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	同グループ内で災害時の連絡体制を作り、協力体制を築いている。また、その他の災害に備えてマニュアルに基づいて避難経路を確保している。	スプリンクラーや火災通報装置を設置している。26年度は確実に消防署に自動通報できるよう、電話回線を2本に増やした。井戸水は停電時も自家発電で利用でき、プロパンガスに少しでも異常があると、ガス会社に自動通報され、自動でガスが止まる仕組みになっている。毎月の訓練と共に、年1回は弐番館との合同訓練が行われ、消防署の方も参加して下さった。今後もホーム内の備蓄を検討する予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症に係る研修等で職員の技術の向上に努めている。居室に入る時は合図して声掛けを行うと共に個々の物を触る時は了解を得るようにしている。	トイレ誘導時はカーテンやドアを閉め、他の方に聞こえないように声かけしている。言葉遣いに配慮し、ご本人の好まれる話題を盛り込んでいる。幼少期に戻っている方もおられ、優しく、母のように接し、下の名前で呼んでいる方もおられる。個人情報の管理に配慮し、家族から同意を頂いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がゆっくりと傾聴する場面を作り、思いや希望を伝えて頂き、個人に合わせた対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を重視し無理強いすることなく入浴、外出、買物、作業等一人ひとりに合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人に選んで頂き、髪をカットしたり、髭を剃るのを手伝っている。また家族の方が面会の際化粧品を持ってきてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の管理栄養士が献立を作り食材が届くようになっている。可能な限り入居者と職員が準備や後片付けを一緒に行っている。	ホームの菜園の野菜を入居者と収穫している。入居者が土付きの芋を洗って下さり、蒸し芋を美味しく食べられたり、米とぎやモヤシの根切り、ツワや里芋、芋づるの皮むきをして下さる。職員が自宅で収穫した渋柿(100個)を、入居者が包丁で皮をむき、干し柿を作られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が1日のカロリー計算をした献立を作っている。自分で水分摂取可能な人にはペットボトルにお白湯やお茶を入れて渡している。介助が必要な人には職員が随時水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きをして頂いたり、週2回薬剤を利用して入歯を洗浄している。自分でできない人は職員が介助している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿パターン、習慣を活かしてトイレ誘導を行っている。その人に応じて尿器やポータブルトイレも使用してもらっている。	布の下着を着用し、自立している方もおられる。トイレの移乗ができず、尿器やポータブルを利用する方もおられ、ご本人の体調に応じた排泄方法を検討している。入居者のサインやタイミングを丁寧に観察すると共に、ご本人の意思「自分でトイレに行く等」も尊重し、必要に応じてトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のテレビ体操と廊下での歩行訓練や水分補給を徹底し、主治医の診断のうえ便秘薬を投与している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節に応じて入浴回数を調整したり、菖蒲湯や柚子湯で季節感を感じてもらったり、入浴剤の使用で香りや保温・保湿効果も楽しみの一つにしている。歌を歌ったり、お話しを楽しむ等コミュニケーションを取り入れている。	浴槽の出入りが困難な方はサイドボードに座って頂き、職員が介助する事で安心して入浴されている。お風呂好きな方が多く、湯船に浸かり、職員との会話を楽しまれている。洗える所は、ご自分で洗って頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に湿温度計を設置し、温度の調整や寝具の手入れを行い、安心して休息したり眠れるような工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を入居者の個人ファイルに綴じ、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は職員が服薬介助にてきちんと服薬できているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ人、食材の切込みができる人、食器を洗える人等一人ひとりの力を活かして役割を持ち、楽しみながら生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	法人内で行われる行事に参加したり、買物、散歩、ドライブに出かけている。また家族に協力してもらって外出届けを提出したのち、本人の希望地に家族同伴で出掛けられる支援している。	ホーム周辺を散歩しながら、桜や水仙、紫陽花などの季節の花見を楽しんでいる。お花を摘んでリビングや居室に飾り、季節を感じている。弐番館と一緒に使える車があり、夕陽ヶ丘そとめの道の駅に行かれたり、あぐりの丘のバスバイクを楽しまれた。愛犬のカットのお迎えの時に、一緒にドライブする機会も作られている。	公用車が常時使用できない事と、個別の外出支援に伴い、ホーム内の職員が減る等の課題はあるが、今後も外出を増やす予定にしている。外出時は職員数を増やし、以前行っていた遠出の外出を企画し、お弁当を食べたり、転居された入居者の面会もできればと考えている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多少の現金を持って頂いており週1回の移動パン屋から好きなパンを購入したり、必要に応じて買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話機の子機を利用し、いつでも利用して頂いたりしている。必要に応じて手紙の代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り明るい空間を作っている。廊下やホールの壁には共同作品や写真等を飾って楽しんで見てもらえるようにしている。	玄関には成長した金魚が泳いでいる。リビングでは、職員と一緒に雑巾縫いや作品作りを楽しんでいる。愛犬を可愛がる姿も日常で、ご本人のペースで生活されている。ホーム内に加湿器はなく、台所でお湯を沸かしたり、濡れタオルを干して加湿に努めている。老健から大きな丸いテーブルを頂き、面会時などに活用している。	自主的に活動される方が増えており、洗濯物たたみや炊飯等が日課となっている。今後も日々の楽しみや役割を増やすため、レクリエーションのレパトリーを増やすと共に、飾りつけの勉強を続け、入居者と一緒に飾りつけをしていきたいと考えている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気に入った場所で過ごして頂けるよう食卓・円卓・ソファを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で使用していた物を置いて頂き、家族の宿泊の希望があれば布団や食事の提供をしている。	家族の写真飾っている。ご本人が使いやすいように電気の紐の場所を工夫したり、ご自分で居室の整理整頓を行い、洗濯物を外に干して頂いている。囲碁やウクレレ等を家族に持ってきて頂き、家族がウクレレ演奏をされている。安心のため、リビング横の畳で休まれる方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置しバリアフリーにしている。またベッドより転倒の恐れのある人にはPバーを設置している。		